

フューザブルズ™ ロベリア

学名: *Lobelia erinus*

ペレット粒数の目安: 500 から 600 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.8 から 6.2、EC 値は 0.75mmhos/cm(2:1)が適正

播種

288 穴、105/128 穴、72 穴、あるいはそれと同等のやや大きなサイズのトレイを用いる。105/128 穴またはそれ以上の大きさのトレイを推奨している。粗めのパーミキュライトで軽く覆土する

ステージ 1 - 発芽には 5、6 日を要する

温度: 20 から 23°C

光条件: 光は(任意だが)あったほうがよい

水分: 発芽の期間中は培地をやや湿潤(level 4)の状態を維持する

湿度: 子葉が展開するまでは相対湿度 95%から 97%で維持する

ステージ 2

温度: 20 から 21°C

光条件: ステージ 2 では、最高で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: ステージ 2 では培地をやや湿潤(level 4)から標準(level 3)の条件で維持する

肥料: レート 1(100ppm(N)、EC 値が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態肥料を与える。培地の pH を 5.8 から 6.2、EC 値を 0.5 から 0.7mS/cm(1:2)の範囲で維持する

ステージ 3

温度: 18 から 19°C

光条件: 温度管理が適正であれば、最高で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 水分レベルは標準ないしやや乾燥(level 3 から 2)状態に下げる。この時、培地を乾かしすぎて苗を枯らせないように注意する

肥料: 濃度をレート 2(100 から 175ppm(N)、EC 値が 0.7 から 1.2mmhos/cm)に上げる。培地の pH を 5.8 から 6.2、EC 値を 0.7 から 1.0mS/cm(1:2)の範囲で維持する

※ プラグ生産の後半では、防疫上の観点から、過湿にならないように注意する

ステージ 4

温度: 16 から 17°C

光条件: 温度管理が適正であれば、最高で 54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

矮化剤: 不要

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.8 から 6.2、EC 値は 0.75mmhos/cm(2:1)が適正

温度

昼間温度: 18 から 21°C

夜間温度: 10 から 16°C

※ ロベリアは、適度な気候条件を好む植物である。上に示された温度条件の範囲で育てることが望ましく、それによって出来ばえのよい最終製品を得ることが可能となる。とくに高温では株が徒長するので注意する

光条件(照度)

温度が適度に維持されている間は、できるだけ高い条件を維持する。厚い条件では、温度を下げるよう適宜遮光する

日長時間との関係

もし日長時間が 12 時間未満であれば、開花を早めるため電照補光を行う

かん水

過剰なかん水、極端な乾燥ともに避ける

肥料

ロベリアはあまり多量の肥料を必要とせず、汎用タイプの肥料をレート 2(100 から 175ppm(N)、EC 値:0.7 から 1.2mS/cm)で与える場合、軽くまたは適度な施肥とすることで最良の結果が得る。また出荷直前に肥料濃度を下げることで、株をコンパクトに仕上げることが可能

矮化处理剤

基本的に矮化剤は不要。必要であれば、苗の移植後 2 週頃に、B ナインを 2,500 から 5,000ppm で一度散布すれば十分である

ピンチ

ピンチは不要。

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 4 から 5 週

播種から移植まで(128/105/72 穴トレイ):

5 から 6 週

移植から出荷適期まで: 5 から 7 週

コンテナ サイズ	植付本数 /ポット	移植後の 生産週数 (288 穴)	播種からの 生産週数 (288 穴)
12cm ポット	1 株	6 週	11 週
15 から 16cm ポット	1 株	6 週	11 週
25 から 30cm コンテナ/ バスケット	5 株	6-8 週	11-13 週

※ 128/105(または 72)穴などの大きなサイズのトレイを用いた場合は、生産期間は 1,2 週間短くなる

予想される一般的な障害等

病気および虫害においては、とくに深刻な問題は報告されていない

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。